

解 答

1 (A)	2 (C)	3 (D)	4 (A)	5 (B)	6 (A)
7 (A)	8 (C)	9 (D)	10 (D)	11 (B)	12 (D)
13 (B)	14 (D)	15 (C)	16 (D)	17 (B)	18 (B)
19 (A)	20 (C)				

- 「私はエミリーがまだ戻ってないことを心配している。彼女にいったい何が起こったのだろうか？」
  - ▶ couldは疑問文で「いったいどうして～か」という強い疑いを表す。ここでは過去のことを指しているので、仮定法過去完了の形になる。問題文のwhat以下は疑問詞節になっているので、この用法を用いることができる。
    - **could have+過去分詞** 「～したかもしれない/～だったかもしれない」
      - ▶ 『may have+過去分詞』のように過去のことに**する推量**を表す。  
 He *could have left* his umbrella in the shop.  
 (彼はその店にカサを忘れたのかもしれない。)
- 「たとえ君が無料のチケットをくれても、私はそれでもコンサートには行きません。なぜなら、ロックミュージックが好きじゃないからです」
  - ▶ 空欄のあとが節になっているので、接続詞が入ると推測できる。(A)even「～でさえ」、(B)even so「たとえ～でも」は副詞、(D)even with「～があるにもかかわらず」は前置詞であるから、譲歩の接続詞である(C) even if「たとえ～でも」が正解である。
    - **even if** 「たとえ～でも」 [仮定+譲歩]
    - ▶ thoughやalthoughとは異なり、うしろに仮定的な事柄が来ることが多い。  
 I'd like to get it *even if* it costs me lots of money.  
 (たとえ大金がかかっても、それを手に入れたい。)
    - ▶ evenがつかないでifだけでも譲歩を表すことがある。  
 We'll finish it, *if* it takes us all day.  
 (1日中かかってもそれを仕上げちゃうつもりだ。)
    - **will not[won't]** 「どうしても～しようとしなない」 [拒絶]
    - ▶ 助動詞willは「～する/～するつもりだ」という**主語の意志**を表し、will not[won't]は「どうしても～しようとしなない」という**拒絶**を表す。また、would not[wouldn't]を使うと、過去における拒絶を表す。  
 He *won't* listen to our advise.  
 (彼は私たちの助言を聞こうとしない。)  
 My brother *wouldn't* eat carrots when he was a boy.  
 (私の弟は、少年のころ、どうしてもニンジンを食べなかった。)
- 「多くの顧客が注文した商品を受け取っていないと苦情を伝えてきた」
  - ▶ 空欄のあとが動名詞not receivingである点に留意すると、complain about「～について不平を述べる」という表現を使えばよいとわかる。(A)becauseは接続詞、(C)soは副詞、(B)throughは前置詞であるが、文意に合わないので(D)が正解。
    - **complain (to A) of/about B** 「(Aに)Bについて不平を言う」  
 Someone *complained to me about* our products.  
 (誰かが我が社の製品について私に苦情を言ってきました。)
- 「ビル、ここであなたに会えるなんて、どれほど嬉しいか伝えられないわ」
  - ▶ 感嘆文を作ればよい。空欄のあとにhappyという形容詞がきていることから、(A)howを用いればよいとわかる。
- 「ポール、私はあなたの新しいウェブサイトがうまく機能しないようで心配です」
  - ▶ 空欄前のseemは動詞であるので、あとに(助)動詞である(A)、(D)は続かない。また、seemには現在分詞も続かないので(C)workingも不適である。

□ I'm afraid ~. 「残念ながら～だと思う」

*I'm afraid she will fail.*

(どうも彼女は失敗するように思う。)

□ seem to do 「～するように思われる」

*She doesn't seem to think that way.*

(彼女はそんなふうには考えていないらしい。)

6. 「その窓はあまりに汚くて、中を通して見るができない」

- ▶ 『too ... to do』の構文。空欄に入る選択肢はすべて前置詞であり、その前置詞の目的語はthe windowであるから文の意味を考えて、「～を通して」の意味を持つthroughが適当である。

□ too ... to do 「とても…なので～できない/～するには…すぎる」

- ▶ too ... to doの場合、文の主語と不定詞の目的語が一致している時には、不定詞の目的語を省略する点に注意。
- ▶ 不定詞の前にfor A(人など)を置いて意味上の主語を表す。

*This coffee is too hot for me to drink. [<sup>x</sup>to drink it]*

(このコーヒーは熱すぎて私には飲めない。)

- ▶ 『too ... to do』の構文はso ... that S can't doで書き換えられる。

*This coffee is so hot that I can't drink it.*

7. 「私はテニスをするのが好きだが、あまり得意ではない」

- ▶ 選択肢はすべて前置詞であるので、文脈より判断する。butで前半の内容に反する内容が示唆されているので、空欄前のgoodから、be good at ~「～が得意である」となる(A)atを選ぶ。

『得意/不得意』を表す表現

□ be good at ~ 「～が得意である」

⇔ be poor at ~/be weak in ~ 「～が苦手である」

*You are not very good at reading maps, are you?*

(君は地図を読むのがあまり得意ではないですね。)

*I am poor at running. (私は走るのが苦手だ。)*

8. 「あなたは、自分自身を下手な歌手だと思っているけれど、そうではありません」

- ▶ 空欄のあとに、to be a poor singerとあるので、consider A to be Bの語法に相応しいものを選択する。他動詞の目的語が主語と同じ人やものである場合、目的語には再帰代名詞を用いる〔再帰用法〕。選択肢の中で再帰代名詞は(C)のyourselfである。

□ consider A (to be) B 「AをBとみなす」 (= regard A as B)

- ▶ 意味的にA=Bの関係になる点に注意。

*I considered him to be a friend but he betrayed me.*

(私は彼を友達だと思ったが、彼は私を裏切った。)

9. 「私はその若者に図書館で話すのはやめるように頼んだが、彼はやめようとしなかった」

- ▶ 選択肢から「動詞talkの形が問われている」とわかる。quit「～を止める」は動名詞を目的語に取る他動詞であるので、(D)talkingが正解。第2文のwouldn'tは過去における拒絶を表している。

[例] *My brother wouldn't eat carrots when he was a boy.*

(私の弟は、少年のころ、どうしてもニンジンを食べなかった。)

10. 「長い登坂の後、我々はずいに槍ヶ岳の山頂に到達した」

- ▶ 選択肢はすべて動作の完了にまつわる動詞であるので、空欄前後にある要素から手がかりを探す。空欄の直後が目的語でthe top of Mt. Yarigatakeという名詞句になっている。よって、空欄には「～に着く」という意味をもつ他動詞(D)reachedが適切であると判断できる。(B)arrived「到着した」は自動詞なので不可。その他は、(A)completed「～を完成させた」、(C)achieved「～を達成した」という意味。

11. 「このアンケート調査に関して、答えたくない質問があれば、それらを空欄のままにしておいてください」

- ▶ 問10と同様に、空欄前後の要素から手がかりを探す。空欄の後のthemがquestionを受ける代名詞、blankが「空白の」という意味の形容詞であることから、SVOCの構文を取ることのできる(B)leave「～を…のままにしておく」が適切である。(A)remain, (C)stayは自動詞、(D)にははmake+O+C「OをCにする」という語法があるが、文意より不適である。

□ wish to do 「(できたら)～したいと思う」 → 不定詞だけを目的語にとる

I wish to see the manager.

(経営者にお会いしたいのですが。)

12. 「メアリーは子どもたちが眠りに着く前に毎晩、物語を語って聞かせた」

- ▶ 選択肢はすべて「話す」ことに関する動詞である。空欄のあとのher childrenとa storyがどちらも名詞(句)であることから、選択肢の中で唯一SVOOの構文を取ることができる(D)tellsが正解である。

□ tell A B 「AにBを話す/言う」

Can you tell me the time, please?

(時間を教えてくださいませんか。)

13. 「部屋から立ち去る前に、明かりが消してあることを確かめてください」

- ▶ 選択肢はすべて他動詞なので、文の意味から判断する。「明かりが消してあること」というthat節を目的語として取るのに最適なのは、「確認する」の意味で用いるcheckである。

[例] I have to check that I've turned everything off.

(私は全部スイッチを切ったかどうか確認しなくてはなりません。)

14. 「多くの人とその無料コンサートに出席していたので、座る場所を見つけることは難しかった」

- ▶ 文の意味や、直後にthe free concertという名詞句が続いていることから、「～に参加する」という意味をもつ他動詞(D)attendedが適切である。(B)present「～を提出する」、(C)attract「(注意・興味など)を引く」。

#### ■ 接続詞so/forの用法

soは〈結果〉を後に続ける接続詞の用法をもつ《出来事 → 結果》

You broke the speed limit, so you'll have to pay a fine.

(スピード違反をしたので、罰金を払わなければならないでしょう。)

これに対してforは〈理由や根拠〉を後に続ける《結果 ← 理由》

I got up at five, for I wanted to watch the sunrise.

(私は5時に起きた。というのも、日の出を見たかったからだ。)

これら2つの接続詞には、節と節を結ぶ用法しかない。また、直前にコンマを置くのがふつう。

15. 「私はトムが好きだ。彼はいつも私を笑わせてくれる」

- ▶ makeが動詞、meが目的語と分かれば、make me laugh「私を笑わせる」という使役の構文を用いると自然な文意になると判断できる。

□ make A do 「(強制的に)Aに～させる」 (= force[compel] A to do)

The trainer made the elephant enter the cage by beating it with a stick.

(調教師はゾウを棒切れでたたいて檻に入れた。)

16. 「ユウコが3時30分までに到着しないならば、彼女が来ることはないだろう」

- ▶ 文意より「～しそうにない」という意味をもつ(D)unlikelyが適当である。その他の選択肢は、(A)unusual「普通でない、異常な」、(B)unnecessary「不必要な」、(C)unable「(～することが)できない」という意味。

□ be unlikely (that) A do. 「Aは～しそうにない」 (= A is unlikely to do.)

It is unlikely that he will win the race.

(彼は競争に勝てそうもない。)

cf. **be likely to do** 「～しそうである」

The price of computers *is likely to* fall again.

(コンピューターはまた安くなりそうだ。)

17. 「この物語は不思議に思われるかもしれないが、それでも真実である」

- ▶ **even though**「たとえ～であっても」が譲歩を表す接続詞であることを考慮すれば、**none the less**「それにも関わらず」が正解だと判断できよう。

<b>even ifと even thoughの使い分け</b>	
<input type="checkbox"/>	<b>even if</b> 「たとえ～でも」 ➡ 後ろに仮定的な事柄が来ることが多い。 <b>Even if</b> it rains, we're going to the beach. (たとえ雨が降っても海へ行くつもりだ。)
<input type="checkbox"/>	<b>even though</b> 「～ではあるが」 ➡ 後ろに事実が来ることが多い。 <b>Even though</b> it was raining, we (still) went to the beach. (雨が降っていたが(それでも)海へ行った。)

**none the less**[**nonetheless**]「それにもかかわらず」(= **nevertheless**)

- ▶ 前述の内容が事実であることを認めながらそれと矛盾することを導入する時に用いる。

He has faults, but I love him *none the less*.

(欠点はあるけどやはり彼が好きです。)

cf. **none the less for** ~ 「～があってもやはり」

I love him *none the less for* his faults.

(彼には欠点があるがやはり私は彼が大好きだ。)

18. 「現在、私はアパートを借りているが、ゆくゆくは大きな家を買いたい」

- ▶ 前半(現在はアパートを借りている)と後半(大きな家を買いたい)の内容を考慮すれば、空所には(B)eventually「ゆくゆくは、いつかは」が入ることがわかる。その他の選択肢は、(A)consequently「その結果、必然的に」、(C)lately「最近、このごろ」、(D)usually「ふつう、通例」という意味である。

19. 「私はあなたが10時前に到着するものだと思っていた」

**be under**[**of**] **the impression that ...** 「(誤って)…だと思い込んでいる」

At first, I was *under the impression that* you were British.

(最初は何となく君は英国人だろうと思っていた。)

20. 「警察はスティーブに交通違反切符を与えた。なぜなら速度制限を超えて車を運転していたからだ」

- ▶ 選択肢はそれぞれ(A)bill「請求書、勘定(書)」、(B)fee「謝礼、報酬」、(C)ticket「切符、入場券、交通反則切符」、(D)charge「手数料、責任、告訴」等の意味がある。正解は(C)である。

[例] A policeman gave me a *ticket* for speeding.

(警官は私にスピード違反の切符を切った。)

<b>『料金・お金』を表す名詞</b>	
<input type="checkbox"/> <b>charge</b> 「(サービスに対する)料金/(電気・ガスなどの)公共料金」	
<input type="checkbox"/> <b>fare</b> 「(乗り物の)運賃」	<input type="checkbox"/> <b>toll</b> 「(有料道路などの)通行料」
<input type="checkbox"/> <b>fee</b> 「(専門職の人への)謝礼/報酬/(受験・入会・入場)料金」	
<input type="checkbox"/> <b>tuition</b> 「(大学・私立学校などの)授業料(tuition fee)」	
<input type="checkbox"/> <b>cost</b> 「(何かにかかる)費用/経費」	<input type="checkbox"/> <b>price</b> 「(商品の)値段」
<input type="checkbox"/> <b>fine</b> [ <b>penalty</b> ] 「罰金」	<input type="checkbox"/> <b>rent</b> 「家賃/賃貸料」
<input type="checkbox"/> <b>admission</b> 「入場料(admission fee[charge])」	<input type="checkbox"/> <b>pay</b> 「給料/報酬」
<input type="checkbox"/> <b>commission</b> 「手数料/歩合」	<input type="checkbox"/> <b>tax</b> 「税金」
<input type="checkbox"/> <b>profit</b> 「利益」	
<input type="checkbox"/> <b>cash</b> 「現金」	<input type="checkbox"/> <b>check</b> 「小切手」
<input type="checkbox"/> <b>bill</b> 「請求書/勘定」	